お茶の水女子大学附属学校園での実践を基にした
実践事例報告

1．実践した学校園・授業者：上越教育大学附属中学校・青柳潤

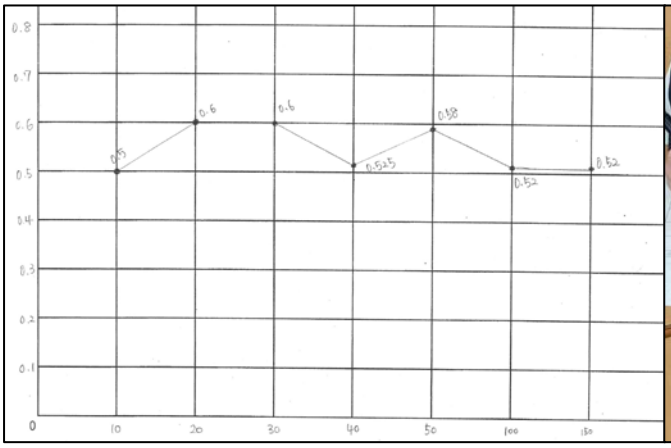
2．学年・教科等・単元等：中学校第１学年・数学科・「確率」

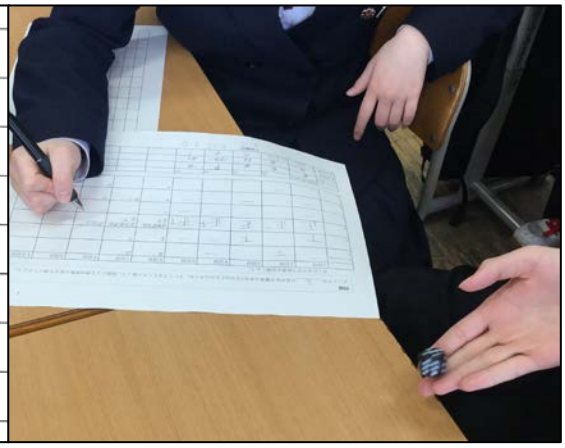
3．基にした実践の学校園：お茶の水女子大学附属中学校

4．基にした実践：「いかさまダイス」
（お茶の水女子大学附属学校園　実践・論文データベースにおける「統計的確率」の事例（授業者：藤原大樹教諭））

5．実践の概要

平成 31 年３月 13 日に実践した。基にした実践からアレンジした点や同様に意識した点は２点ある。１点目は，より多くの結果が得られるよう，ペアにいかさまダイスを配布して実験を行ったことである。２点目は，実験回数が多いほど相対度数が一定の値へ近付くことを実感できるよう，50 回までは 10 回おきに相対度数を求めさせ，その後は 50 回おきに相対度数を求めさせたことである。





6．実践してみた感想など

さいころのある目の出やすさは 1/6 であると，感覚的に生徒は理解している。そこで，いかさまダイスで何回か実験を行ってみると，偏りの仕組みに気が付き，1/6 とは異なる出やすさを求めようと目的をもって実験に取り組む生徒の姿が見られた。また，50 回までの相対度数の変化は，グラフがジグザグだったり右肩下がりだったりしたが，実験回数の単位を 50 回に増やすことで安定したグラフとなったペアが多かった。グラフを板書し，その後も値は大きく変化しないであろうことを，生徒と確認できた。